

第3127回
例会本日の
プログラム

就任挨拶(1) 会長、副会長、幹事

(夜間例会) 退任挨拶 瀬尾昌資 会長 他 18:00 ~ (於) 札幌パークホテル

瀬尾昌資 会長

一年間、本当にありがとうございました。

本年度の活動は、7月の熊本ツアーからスタートいたしました。星野さんがリーダーとなり、札幌南クラブの武部さんとともに熊本を訪問。現地ではゴルフチームと観光チームに分かれ、熊本東ロータリークラブとの交流を深めました。今まで何度かお話ししていたものの、こちらから訪問する機会が少なかったため、今回は非常に意義のある機会となりました。

世界大会にも参加を予定しておりましたが、諸事情により叶わず、そのために予定していた例会も休会となり、関係各位にはご迷惑をおかけしました。

振り返ると会員数は100名を切り、現在98名です。今年度は9名の新入会員を迎えることが出来ました。一般会計は、17万円の黒字となりそうです。

余剰金については、前年度にホームページ作成のため約400万円を取り崩しました。今後は「いくらなら適正か?」という補助金の在り方を明確にし、慎重に管理する必要があると考えています。新規会員の確保は非常に重要であり、今後も年間5~10名の新入会員を継続的に迎えることが求められます。特に若い皆さんの力をお借りして、ぜひ来年度の本間会員増強委員長を支えていただきたいと思います。

例会運営については、できるだけスムーズな進行を心がけ、基本的に13時30分を過ぎないように努めました。皆さんの時間を大切にすることがストレス軽減にもつながると考えています。ただ、私自身2月にスキーでアキレス腱を断裂し、しばらく入院となったため、例会を欠席することもありました。特に吉山さんの100歳誕生日会では花束を渡す予定でしたが叶わず、高山さんをお願いすることとなり、個人的に残念な出来事でした。

ニコニコボックスについては、約5万円の黒字となりそうです。しかし、特別なニコニコ金を除けば、55万円の赤字です。例会ごとの意識づけが必要だと感じています。井上会長や小山幹事のように、毎例会ごとにニコニコを促す姿勢が赤字回避のカギになると思います。

私は45周年の際に入会し、今年で22年目を迎えました。当時30~40人が参加していたゴルフ同好会も、現在は24~25名。年齢の変化もあり、参加者が減ってきたのは寂しいところです。かつては奥様方の参加も多く、にぎやかだった頃を思い出します。

家族例会についても、年末に野村さんから「女性の姿が少ない。これでは家族例会とは言えない」と厳しい言葉をいただきました。確かに今の時代背景もありますが、できる限り多くのご家族にご参加いただくことが大切です。若い会員の皆さんには、ぜひ奥様やお子様を連れてきていただき、ワイワイと賑やかな例会となることを期待しております。

最後に少しご案内です。今年の納涼家族会には、私の旧友である谷本光さんがゲスト出演します。中学時代からの友人であり、かつて200人規模のライブでも共演した仲です。アコースティックギターの素晴らしい演奏をお届けしますので、ギターに興味のあるお子様やご家族がいらっしゃいましたら、ぜひコンサート感覚でご参加ください。

一年間、大きなトラブルもなく、皆様に支えられて何とか無事に務めを果たすことができました。今後は一歩引いて静かに活動を見守る所存ですが、スキー、ゴルフ、そしてギターサークルを通じて、引き続きクラブに貢献していきたいと思っております。

改めまして、心より感謝申し上げます。一年間、本当にありがとうございました。



■本日のロータリーソング

君が代、四つのテスト

2025-2026年度

国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長: フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう

池田 薫 SAA

今年度、SAAを務めさせていただきました池田です。

本日は時間の都合上、簡潔にご報告させていただきます。

今年度は、初めてSAAも含めて担当させていただきました。副SAAとしては、経験豊富な八木さん、児島さんのお二人、そして入会間もないながらも熱心に取り組んでくださった梅光さん、白井さんが支えてくださり、大変心強く、助けられた一年でした。

私たちSAAの主な役割は、座席の割り振りや会場での案内対応などですが、それぞれのメンバーが積極的にアイデアを出してくれたおかげで、スムーズな運営ができたと感じております。

また、本年度の会長の方針である「明るいロータリー」を意識し、笑顔で皆さまをお迎えするよう努めてまいりました。

私自身、入会当初は「赤いタスキを掛けて入口で何かしている人たち」という程度の認識しかありませんでしたが、実際に役割を担って初めて、その重要さと大変さを実感いたしました。経験して初めてわかることも多く、本当に貴重な学びの場であったと感謝しております。

一年間、温かくご協力いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

不動直樹 親睦活動委員長

皆さん、こんばんは。不動でございます。

本年度、親睦活動委員長として活動させていただきました。副委員長として支えてくださった上田さん、村田さん、渡辺さん、そして委員の皆さまには、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、私事ではございますが、既にご承知の方もいらっしゃるかと思います。3月末をもって前職を退任いたしました。その際、「3月末でロータリーも退会する予定です」とお伝えしましたところ、会長、幹事をはじめ、皆さまから「すでに会費も納めているのだから、6月末までは在籍していても良いのでは」と温かいお言葉をいただきました。

私はそのようなお言葉にすぐ甘えてしまう性格でして(笑)、ありがたく6月末まで活動が続けさせていただくこととなりました。そうしているうちに、新たな職場でのご



縁があり、「ぜひロータリーを続けてください」と言っていただき、結果的に継続することができました。

このように拍手をいただけるとは思っておらず、むしろ「もういい加減にしろ」と言われるのでは…と少し不安でしたが、あたたかく迎えてくださる皆さまに感謝致します。

実は退会を考えていた時期は、メイクアップもままならず、「まあ、出られないのも仕方ないか…」と自分に言い訳していたところもありました。また、少し恥ずかしい演奏を披露させていただいたこともありましたね(笑)。それも含めて、皆さまのおかげで多くの思い出ができました。

今後も引き続き、ロータリー活動にしっかりと関わってまいります。実は、前回梅光さんから親睦活動の引き継ぎを受けましたが、次年度はその梅光さんにまたお返しするという流れになっております(笑)。

今後は一会員として、親睦活動をさらに盛り上げていけるよう、微力ながら尽力してまいります。

どうぞこれからもよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

石田剛毅 会員増強委員長

皆さん、こんばんは。今年度、会員増強委員長を拝命いたしました石田でございます。

先ほどのお話にもありました通り、残念ながら私の活動力と力不足により、会員数100名の維持ができませんでした。

本年度の入会者は9名でしたが、退会者およびご逝去された会員を合わせると12名となり、結果として会員数は3名の減少、100名を下回る結果となりました。

入会者9名のうち半数は、瀬尾会長がご自身の人脈を通じてお声がけくださった方々です。私自身、1年間活動してみても、改めて新しい会員を迎えることの難しさ、そしてそれに必要なエネルギーや幅広い人脈の重要性を強く感じました。

次年度の本間委員長には、私が作成した「会員候補者リスト」(現時点で22名)を引き継がせていただきます。このリストをさらに40名、50名と広げていけるよう、皆さまのお力添えをぜひお願いしたいと思います。身近なお知り合いやお仲間をご紹介いただき、来年度には再び100名体制を取り戻すことができればと願っております。

本年度は至らぬ点も多くございましたが、皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。一年間、本当にありがとうございました。



河原昌文 プログラム委員長

皆さん、こんばんは。今年度、プログラム委員長を拝命いたしました河原でございます。

一年を振り返っての正直な感想は、「ようやく終わった…」という安堵の気持ちでいっぱいです。毎月、例会のプログラムをどう埋めていくかという作業が絶え間なく続き、本当に苦労の多い一年でした。

前年度は会員増強委員長を務めていたこともあり、本年度は「会員の皆さんに楽しんでいただける内容を」との思いで、プログラム構成に取り組んでまいりました。少し変わった切り口の企画もいくつか盛り込めたとは思いますが、残念ながら会員増強に直結するような内容にはつながることができず、そこは反省点として受け止めております。

次年度は小山委員長へバトンをお渡しいたします。どうか、引き続きオリジナリティのある魅力的なプログラムを企画していただけることを期待しております。

一年間、ご協力くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

大越誠之 社会奉仕委員長

皆さん、こんばんは。本年度、社会奉仕委員会の委員長を拝命し、本日をもって退任いたします大越でございます。

今年度の活動につきまして、当委員会で実施した主な3つの事業を紹介致します。

これらの活動は、次年度の社会奉仕委員長を務められる渡辺健太会員にも引き継がれる予定です。まず1つ目は、7月下旬、夏休みが始まったばかりの土曜日に白石区で開催された「月寒川にぎわい川まつり」です。

2つ目は、毎年12月頃に開催している「ろう者とのフットサル交流会」で、これは社会奉仕委員会の中心的な事業の一つとなっています。

そして3つ目は、つい先日実施された「全国ユニバーサルカーリング大会」です。これは5月に開催されたもので、誰もが参加しやすいユニバーサルなスポーツイベントとして定着しつつあります。

これらの事業には、毎回多くの方が積極的にご参加くださいました。まだ参加されたことのない方や、「どんな内容なんだろう？」と感じている方がいらっしゃいましたら、



ぜひ一度足を運んでいただき、ロータリーの奉仕事業とはどのようなものかを、体感していただければと思います。

「週末は忙しくて…」というお気持ちもよく分かりますが、お一人でも多くの会員の方にご参加いただけることが、活動の広がりや意義の共有につながります。どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

正直なところ、これら3つの事業は非常に内容が重く、委員長としては手一杯に感じる場面も多々ありました。今後この形を続けていくのは、なかなか大変ではないかと思えます。ですので、今後は1つの事業を他の委員会に分担するなど、運営面での工夫もぜひご検討いただければ幸いです。

最後に、今年度の活動に関わってくださったすべての方々に、心より御礼申し上げます。ご協力いただいた皆さま、そしてご参加くださった皆さま、本当にありがとうございました。

一年間、どうもありがとうございました。

喜多伸行 青少年奉仕委員長

皆さん、こんばんは。今年度、青少年奉仕委員長を務めさせていただきました喜多でございます。

正直なところ、最初は「青少年奉仕委員会って、何をやるんだろう？」という状態からのスタートでした。前年度の委員長である古瀬さんからさまざまなことを教えていただき、その中で「まずは北海高校のインターアクトクラブの生徒たちと親しくすることが大切」とアドバイスをいただきました。

そこから交流が始まりました。ほとんどが女子生徒で、年齢は16歳から18歳。私の娘は現在33歳ですので、ずいぶん年齢の離れた世代との関わりとなり、最初はどう接すればいいのか手探りの状態でした。

しかし、何度か顔を合わせるうちに少しずつ打ち解けてきて、時には“おじさんギャグ”も交えながら、ようやく笑顔で会話ができるようになってきたかなと思っています。こちらが心を開けば、自然と相手も笑ってくれる。そんな小さな積み重ねが関係を築くコツなのだと感じました。

一方で、顧問の先生との連携にも学びがありました。私より少し年下の先生方でしたが、やりとりの中で、意思疎通がうまくいかなかったことも正直ありました。次年度の委員長の方には、そのあたりの経験も含めて、スムーズな連携のためのポイントをお伝えしたいと思っています。

また、社会奉仕委員会の大越さんとも連携を取りながら



活動できたことで、今年度は全体としてスムーズに進められたのではないかと感じています。

ただ、川まつりに関しては、連絡が遅れたことで「もっと早く連絡してほしかった」と強くご指摘をいただき、当日は参加できませんでした。これも反省点の一つです。その後は、1ヶ月以上前に事前連絡をすることでスムーズな調整ができるようになり、先生方とのやり取りにも慣れてまいりました。

このような経験を、次年度の委員長にしっかりと引き継いでいきたいと思っております。

一年間、皆さまには本当にお世話になりました。ありがとうございました。

矢橋潤一郎 音楽委員長

皆さん、こんばんは。今年度、音楽委員長をお手伝いしていただきました矢橋でございます。

実は本日、東京から戻ってきたばかりでして、盛岡から上京し、そのまま幕張メッセへと足を運んでおりました。盛岡では盛岡中央ロータリークラブの例会に出席し、今朝は東京城南ロータリークラブ(モーニングクラブ)の例会に参加いたしました。会場は品川のプリンスホテルで、朝8時からの例会でした。

こうして3日間出張しっぱなしとなりますと、私も今年で57歳になりますので、さすがに体にこたえます。ただ、不思議なもので、疲れが溜まってくると逆にテンションが上がるようでして(笑)、今日のこの締めめの指揮にそのエネルギーをぶつけてやろう、という気持ちで帰ってまいりました。

さて、この1年間の音楽委員長としての取り組みについてですが、月初の例会での国歌および童謡・唱歌の指揮はすべて私が担当させていただきました。加えて、例年通り、私の独自のスタイルで

いわゆる“バーンスタイル”にて務めさせていただきました。

毎回、バーンスタインが私に憑依したり、あるいはカラヤンが乗り移ったりしているつもりで(あくまで“つもり”です)、指揮台の上を走り回っておりました。あれは私が動いているのではなく、「憑依した巨匠たちが私を操っている」という設定でした(笑)。

とはいえ、一年間やってみて分かったことがあります。それは「指揮は立ち止まって落ち着いて行った方が、やは

り良い」ということです。

次年度からは、きっと真っ当でしっかりした方が、正統派の指揮をしてくださることと思いますので、どうぞご期待ください。

一年間、私の少々暴走気味な(笑)パフォーマンスにお付き合いくださり、本当にありがとうございました。

乾杯のご発声 岩崎修一 副会長・クラブ奉仕委員長



締めめの挨拶 高山和宏 副会長・職業奉仕委員長

